

令和4年度 第1回
岡山県発達障害者支援地域協議会
岡山県広域特別支援連携協議会

日時：令和4年8月8日（月）
14：00～15：30
場所：県庁3階大会議室

1 開会

委員長

- ・本協議会の委員長に就任して、4年目に入った。
- ・発達障害のある人のトータルライフ支援プロジェクトをはじめ、発達障害のある人への支援の推進に向け、各委員の意見を調整し、計画に積極的に反映していきたい。
- ・今年度の本協議会においても、委員の皆様の協力をお願いしたい。

2 報告事項

- 事務局から配付資料に基づき説明

3 議題

議事

- (1) 発達障害のある人のトータルライフ支援プロジェクトの実施状況について

- 事務局から配付資料に基づき説明
- おかやま発達障害者支援センターから配付資料に基づき説明

協議

委員

- ・発達障害の正しい理解の促進として、お手許にチラシを配布している「アスのワニプロジェクト」を紹介させていただきたい。
- ・発達障害に関する正しい情報が若い人たちに届くよう、令和2年度に発達障害者支援県民理解促進事業を県から受託したことをきっかけに、現在も動画配信を行っている。単発ではなく継続したかたちで、関連情報や岡山市発達障害者支援センターが制作した動画にもアクセスできるようにしている。
- ・ぜひご覧いただき、発達障害への正しい理解を広げていただけたらと思う。

委員

- ・重点項目があまり明確でなかった。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響に関し、十分検証するためには落ち着いてからでなければできないとしても、少なくとも今の段階でどうかということがないと報告としては足りないと感じる。

委員

- ・コロナ対策として、ペアレントメンター活動では、今までは座談会や研修会等に出向いてお話しいただいていたが、現在は事前に録画したものを研修会で上映するなど、形を少し変えながら対応している。

委員

- ・派遣依頼の件数が少なくなったのか。

委員

- ・例年より少なくなっている。

委員

- ・録画は将来の別の研修でも使われるのか。

委員

- ・使うことを想定している。

委員長

- ・ペアレントメンターの年度別派遣実績が令和2年度、令和3年度もかなり減っているが、派遣の減少分について、動画などを活用してフォローしていくという考えか。

委員

- ・明らかにコロナの影響でこれだけ減っているのに、終息しないうちは、そういう形で対応していこうと考えている。

委員

- ・コロナによる、発達障害の状態への影響、例えば子どもが大変落ち着かないとか、そういう問題はきっとあったはずだが、それに対しては対応してないということか。

委員

- ・正直なところ、実際にはできていない。

委員長

- ・コロナの感染状況に対する対応など、他にはあるか。

委員

- ・キーパーソン活動促進事業が実施できていなかったため、今年度はオンライン等を活用しながら実施しようと考えている。

委員長

- ・ライフステージ移行期の引継ぎ体制の検討というのは、実際には関係機関の連携を促進する、例えば中高関係機関連携会議の開催により行うということか。

委員

- ・学校の通級指導教室と連携し、働くことをイメージしてもらうためのプログラムを実施している。授業の中にそのプログラムを枠組みとして取り入れている支援学校もある。

委員長

- ・「切れ目のない」という言葉がなかなかわかりづらく、県民の方も「連携」という一言で終わってしまうことが多いので、切れ目のない支援の現実対応として、今回の中高関係機関連携会議の開催をもっと強調してもいいのではないかと思うので、検討をお願いしたい。

議事

(2) 発達障害のある人への支援に係る取組について

- 各部署から配付資料に基づき取組の概要を説明

協議

委員長

- ・各部署の取組についてご意見、ご質問があればお願いしたい。

委員

- ・教職員に問題があり、学校によっては組織の体をなしてないと見えるところもある。県下を見渡して、どうもうまくいってない学校があると思ったとき、どのように対応しているのか教えていただきたい。特別支援教育を行う教職員自身が全然機能していないということでは、多分どうにもならない。

事務局 (特別支援教育課)

- ・教員の専門性に関する課題解決のため、特別支援学校の教員が小学校、中学校、幼稚園等私立も含めた全ての学校に支援に入る、特別支援教育エキスパート派遣事業と新規に実施しており、特別支援学校の先生から、スキルやノウハウを直接お伝えしている。
- ・また、市町村を対象に、特別支援教育が進んでいるか、教職員の専門性がどういったところにあるのか、どこに課題があるのかという調査を行っており、その調査に基づき、当課職員が小学校や中学校に出向き、授業を実際に見て、具体的な指導も行っている。
- ・特別支援教育を進めるために大切なのは、一人ひとりの先生方ももちろんだが、管理職がどう考えるか、リーダーシップが絶対に必要で、また管理職がどれだけ専門性を持っているかということもその学校の特別支援教育の推進に大きく関わってくるため、今回改定のプランの中にもその部分を強く入れている。

- ・一次案の40ページに管理職の専門性向上という項目を設け、管理職が特別支援教育の推進を学校経営計画に位置付け、評価することを入れている。
- ・皆様方の御期待に沿えるよう、これからも特別支援教育課として事業等を進めてまいりたい。

委員

- ・先日、文部科学省から、例えば新採5年位の先生には、その5年間の間に一度は特別支援学級、通級指導教室を担当させ、早めに専門的なスキルを身につけ、普通学級においても特別支援の観点を持った授業をしていく、生徒指導をしていく、人間関係作りをして子どもたちをしっかりと理解していくという、指針が示されました。我々学校現場にいる管理職としても、そういった視点は大変重要であると考えており、その視点を持って学校運営の方はしていかなければいけないと思っている。特別支援学校長会でもしっかりと意見を提案していこうと思っている。

委員

- ・事業の実施自体が目的になっては駄目で、事業が何のためにあるか、本人たちのためにならないことはやっても意味がないと思う。逆に、課題として認識したことに対してどういう解決をするのか、あるいはしたのかというところは、この資料からは読み取れなかった。
- ・今、学校の先生は大変で、給料を上げたり、休みを取るようにしてあげたらと思うが、親があれせいこれせいと今まで言ってきた部分もあるのかなと最近ちょっと反省もしている。
- ・先生方は、子どものため一生懸命していただいていると思っているが、子どもの教育に携わっているのかなと疑問を持つような先生もおられるようだ。行動が遅かったり、障害特性からなかなかできないことがあるが、それに対して、頭が悪いんじゃないかというような言い方を教育者がするというような事例も聞く。もしこういう先生が多いのなら、百害あって一利なしと思うところもある。
- ・令和4年度の計画がそれぞれ実のあるものにしていただけたらと思う。

委員長

- ・次回以降も議論を深めていきたいので、各関係部署は本日の意見等を踏まえ、施策検討、課題解決にぜひ取り組んでいただきたい。

4 その他
特になし

5 閉会